

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100942		
法人名	社会福祉法人 新生会		
事業所名	グループホーム 桜手苑		
所在地	福井市大手2丁目22番18号		
自己評価作成日	令和2年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 2年 2月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地であり、馴染みのある地域で安心して生活を送れる様に支援しています。地域の方との関わりを大切にす為、自治会の活動やイベントへの参加を季節を通して行っています。本人様の希望で家族や知人との繋がりを大切に継続して頂ける様にお話させて頂いています。昼食も行っており食べたい物を話し合い買い物へ行きみんなで調理して召し上がって頂き喜んで頂いています。立地に恵まれており季節ごとの散歩、外出に心掛けてきました。介護度に取らわれないその方に合ったサービスの提供を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市中心部に位置し、近辺には小学校、公園、福井城址、図書館など、公共施設が点在している。公園や福井城址は、季節の移り変わりを感ぜられる絶好の散歩コースであり、利用者と馴染みの人との出会いやコミュニケーションの機会となっている。生活の場は、5階建ての地域密着型介護老人福祉施設の2階部分にあり、同じフロアのデイサービスセンターと協力体制のもと運営している。また、1階入り口の「SOP」では、ボランティアの受け入れや地域の人と交流を図ったり、職員や家族と一緒に、利用者が一息つける憩いの場となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づきその方らしく生活出来る様、常に話し合いの場を持ちながら支援しています。	管理者はじめ職員は、法人の理念に基づき「その人らしい生活」の実現に向け、一人ひとりと丁寧に向き合い、安全・安心のもと楽しく暮らせるように支援している。実践においては引継ぎ時に言葉に出して、確認や振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での祭りや施設での行事で交流を図り、近くの美容室、スーパー等も利用しています。	喫茶の機能を備えた1階のフリースペース「SOP」には法人職員が常駐し、地域に開放し、利用者も自由に出入りしている。また、同じ階のデイサービス利用者とも交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の交流サロンを活かし地域の方との関係築いていける様に体制を整えていきたいと思えます。近くの小学校に対しての福祉施設との交流会を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況を説明し意見をサービス向上に活かしています。	運営推進会議は2か月毎に開催し、地域包括支援センター職員や、公民館長、同建物内の地域密着型介護老人福祉施設の各サービス責任者出席のもと開催している。	会議メンバーに家族や利用者の参加を得て、運営への理解を図るとともに率直な意見をもらい、サービス向上に活かす取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、地域包括ケア推進課などに相談、助言、指導を受けながらケアの向上を図っています。	地域包括支援センターや、市介護保険課とは、ホーム運営に関する連絡・相談を日常的に行い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止を理解し管理者からの指導、苑内研修での学びを活かし、職員一人一人がお互いに意見を交換しながら支援を行っています。	年1回の施設内研修は、外部から講師を招いて開催している。外部研修には新規採用職員を派遣するなど、身体拘束をしないケアの大切さについて理解を深めている。玄関付近に行く利用者は、フロアの散歩や1階「SOP」へ同行するなどの対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の研修を受け管理者からの指導も行っています。言葉や身体的虐待が無い様に指導を受け理解しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前の入居者で制度を利用されていたので実体験している職員もおり研修内容も理解出来ており支援に活用出来ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な時間を取り可能な限り理解して頂ける様丁寧な対応を心掛けています。昨年の介護度の改定時にも丁寧に説明を行いました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や面会時に家族面談を行ったり電話連絡時に意見を伺う様にしています。内容は職員間にて話し合いの場を設けています。	事業所来訪時や、訪問しない家族には電話で連絡するなどし、要望や意見を聞く機会を設けている。また、利用者の意向は、日々のコミュニケーションを通じて把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を設けています。	管理者は、意見を言いやすい環境づくりに努めるとともに、新規採用職員へは積極的に意見を求める働きかけをしている。職員の提案は、事業所全体の協力を得て実現するなど、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修参加や資格習得の機会が多くあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識向上の為、苑内研修や外部研修に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加し、他事業所職員と意見交換を行っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を職員間で共有し関係性を保ちながら出来る限り入居者の話に耳を傾け安心を確保できる様に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しの不安でも直ぐに言って頂ける様な関係作りを心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と家族の要望を把握し職員同士で話し合いながら支援していける様にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のしたい事、やりたい事を見つけ一緒にやっていける様な関係を作る様に心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援内容に変更があった時には家族と意見交換を行いながら適切なサービス提供が出来る様に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでに利用していた場所へ出掛けたり、1階サロンにて馴染みの方と面会をしたりと関わりの継続に努めています。	日頃から、利用者の馴染みの人や場所などを把握し、家族と共有している。友人を連れてきてもらったり、食材の買い出しや外出時は自宅周辺をドライブコースに入れたり、積極的に関係継続のための支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合いそうな方同士でテーブルを同じにしたりしています。1日の中で状況に変化のある時には職員が中に入り対応しています。フロアにソファも置いて環境作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護支援専門員が経過後もフォローしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりに注意し本人の希望や思いを聞ける様に努めています。職員同士、情報を共有する事で対応しています。	職員は、利用者と日頃の会話や関わりの中で思いを把握するよう努め、気づきは記録するとともに会議の中で話し合い、支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、介護支援専門員から以前の情報やフェースシート、サマリーを確認し職員間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケアの中でその方の状況等、職員間で連携しながら現状を把握出来る様に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員からの情報や意見を全員で話し合い速やかな対応が出来る様に努めています。	利用者の生活歴や能力に加え、家族の意向を参考に、介護計画を作成している。職員は各自3名を担当し、毎月のモニタリングと6か月毎の見直しを行い、特別な変化があれば随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や職員の気づきは記録にて情報の共有に努めています。本人の発した言葉等も記録に残す様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散髪、嗜好品の買い物等は事業所にて対応している事があります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内に地域交流の場がありボランティア受け入れを行い交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族へお願いしておりその際にホームでの様子を伝えたり必要な記録を持参して頂く様にしています。適切な医療が受けられる様に支援しています。	利用者の希望するかかりつけ医の受診を継続しており、基本家族が同行するが、必要に応じて職員が同行することもある。受診時は事業所での記録を提供し、受診後も状況を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の心身の変化は記録し看護師や医療機関と情報を共有し速やかな連携が取れる様に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、入院中に職員が病院へ向かい病院関係者との情報交換や今後の対応等、話し合える関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合いながら出来る事を職員間で話し合い支援出来る様にしています。	現在は、特に緊急の対応を要する介護度の利用者はいないが、状態に応じて家族と話し合いながら支援している。今朝、急変した利用者の短期看取りの実績がある。	今回の経験を振り返り、事業所対応の方針を職員間で話し合って明文化することが望まれる。また、看取りに関する研修に参加し伝達講習や話し合いを継続して行い、利用者、家族の意向に応えられるような取り組みが求められる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルがあり研修参加で知識を深めています。消防による救命救急講習会も実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し避難訓練も行っていきます。	年2回の避難訓練を実施、内1回は夜間を想定し行っている。自治会主催の避難訓練も職員が参加している。事業所は、福祉避難所の指定を受けており、3日分の食料や水を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートなケアは個室にて行い声掛けや対応は尊厳を損なわない様に務めています。	プライバシーの尊重に関する内部・外部研修を実施している。職員は利用者のペースに合わせた家庭的な温かい言葉かけをし、排泄や入浴時は同性介助に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の押し付けにならない様な声掛けを心掛け自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ状況を確認しながら希望に添える様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室への外出支援や馴染みの美容室へ出掛け髪を好きな色に染めている方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食会を行い、メニューや買い物、調理を一緒に楽しみながら行ったり、おやつ作りも行っています。	箸や湯飲み等は、利用者個人の好みの物を持ち込み使用している。嗜好調査を行い、月一度食材の買い物から料理まで利用者が行う昼食会を開催したり、日々のおやつを手作りすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた食形態で量にも注意し本人のペースで食べて頂いています。水分の苦手な方にはゼリー飲料を提供したり工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じて声掛けや介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを理解しそれに合わせた声掛けを行っています。	日中はトイレでの排泄を促し、自立を支援している。実際に自立している利用者は多く、ほとんどが布パンツやリハビリパンツを使用している。排泄パターンはデータで管理し、必要な利用者へは適宜さりげなく声かけし、トイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後のヨーグルトの提供や都度、牛乳を提供し様子観察を行っています。その方の状態に応じ服薬での対応も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性介助、週2回の入浴を基本としています。職員の都合で日時決定を行わない様になっています。	入浴は基本週2回で、利用者の希望する時間帯に支援している。アプローチを工夫し入浴拒否がなくなっている他、ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じられる工夫もしている。重度化した場合も併設施設の機械浴で対応でき、利用者の安心に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	持参された馴染みの寝具を使用している方もあり就寝時間もその方に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は1冊にまとめられており職員がいつでも確認出来る様になっています。状態の変化があった時に対応出来る様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな事、得意な事を理解し日々の活動に活かしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に希望する物などあれば計画を立て外出したり、近くであれば散歩しながら買い物へ行く等の対応をしています。	季節ごとの行事を計画し、ほぼ毎月外出している。食材の買い出しに同行する等外出の機会を設け、図書館や近くの公園散歩、自宅周辺へのドライブでは知人に会うことも多く、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に預かり金がある為職員付き添いの元使える様にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望されれば使用して頂いています。年賀状、暑中お見舞い等のやり取りも行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様に飾りつけや絵、写真等を工夫しています。	共用空間は、天井が高く大きな窓からの採光もよく、壁面には利用者の作品が飾られ明るく居心地のよい場所である。窓際の畳敷きスペースや、適所に配置されたソファなど、利用者の思い思いの居場所が確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にソファや畳を置いてあるので好きな場所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限は無く、自宅で使用していた馴染みの物を置いておられる方もいらっしゃいます。	椅子や机など利用者の使い慣れた品々が持ち込まれ、今までの生活を継続できるような環境づくりを支援している。ぬいぐるみや家族による手作りの装飾など、利用者の安らぎとなるような物も持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーではあるが壁全体に手すりは設けず自立を促している。個室内も本人の使いやすい様にタンスの向きなどは工夫しています。		